

昭和廿二年二月廿五日  
草摺控より予の字名の是世の発表後「川明」を以て  
昭

# 水野葉舟一志のこと

からあえち郎

水野葉舟一志は私のたった一人の生涯かけものな  
造だった。初めはあなたのは明治廿五年あたりに  
初期「明星」の四号か五号あたりに「歌の会」の  
席上であつた。私は當時美術学校の生徒であ  
つた。所謂青年の集まりで、其頃水野君は蝶  
と苦んておれをあるか、其頃水野君は蝶  
郎といふ名で花やか、明るい歌を考へておれ  
水野君に不思議な引かけられ、其の美男  
ぶりとおしやうと、人々といふ人々を惹きつけ  
難く、名前のまに大の仲よしとあつた。水野  
君は三回獨りか、四回か、五回か、六回か、七  
回は、水野君の林の中を、互に同行しては  
多回、水野君の歩み、水野君の歩み、水野君の歩  
多回、水野君の歩み、水野君の歩み、水野君の歩  
の難、水野君の歩み、水野君の歩み、水野君の歩

(1)

文章は同の... 昭和廿二年二月廿五日... 草摺控より予の字名の是世の発表後「川明」を以て





土地を耕しなから、自然観察に徹し、  
めた記録を、此三月二日の  
るものを、絶えず文書の道に  
歌い、そのおつ、福海、といふ、  
其地、遺物の量は、恐らく、大  
た、その、あり、





高村さん

原博

板橋区蓮根町二の八  
水野陽子殿  
トヨコ

JOLF



株式会社 **ニッポン放送**

東京都千代田区有楽町1丁目7番地

TEL (281) 大代表 5 2 5 1 番

電報略号マルノウチ「ニッポンホウソウ」

**1310KC**

(36. 1. 10,000)